

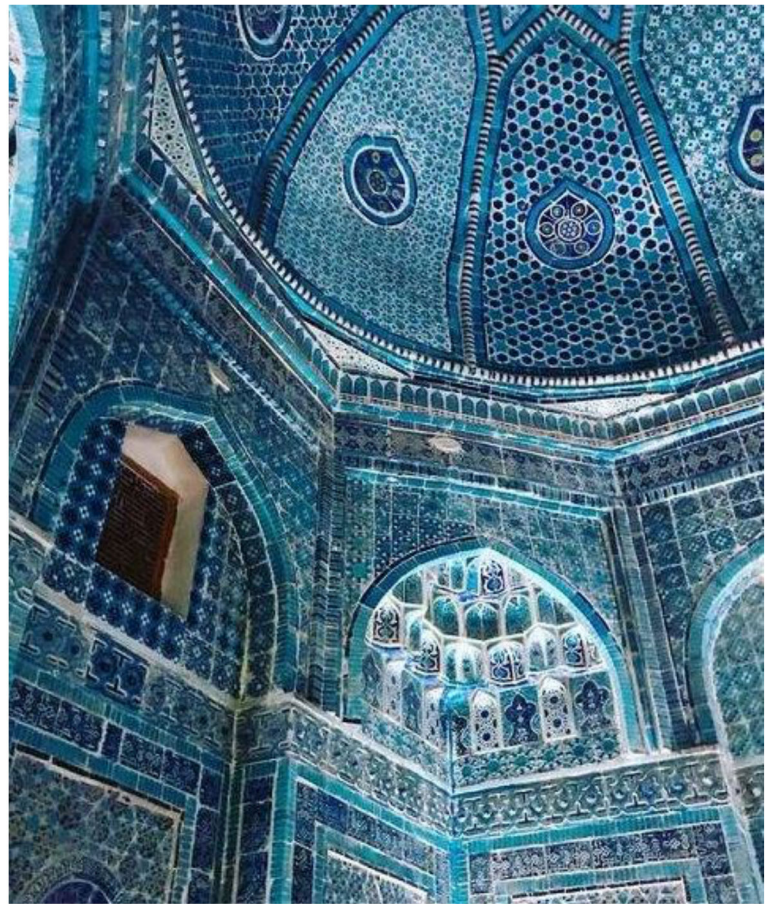
懐かしい旅 その 6

青の都サマルカンドと花のカルカラ谷を訪ねて 中央アジア3カ国の旅

ハイキング散策の会 渡邊 美穂子 S40文

サマルカンドブルーのモスクがどうしても見たくて
2006年7月11日から21日まで12名の仲間で
中央アジア3カ国を旅してきました。

サマルカンドはウズベキスタンの古都で、かつて
東西の文化をつなぐシルクロードの要衝として栄え、
13世紀にモンゴル帝国に滅ぼされるも14世紀末
に英雄ティムールによって復興を遂げ、
サマルカンドブルーと呼ばれる青タイルの建築が並ぶ
”青の都”として注目され2001年に世界遺産に
登録されています。



地図と訪問地

旅の前半はウズベキスタンやカザフ
スタンの濃厚かつロマンあふれる歴史を
堪能し、後半はキルギスのバラエティに
富んだ大自然中で、美しい景色と花々を
満喫しました

訪れたのは以下の通りです



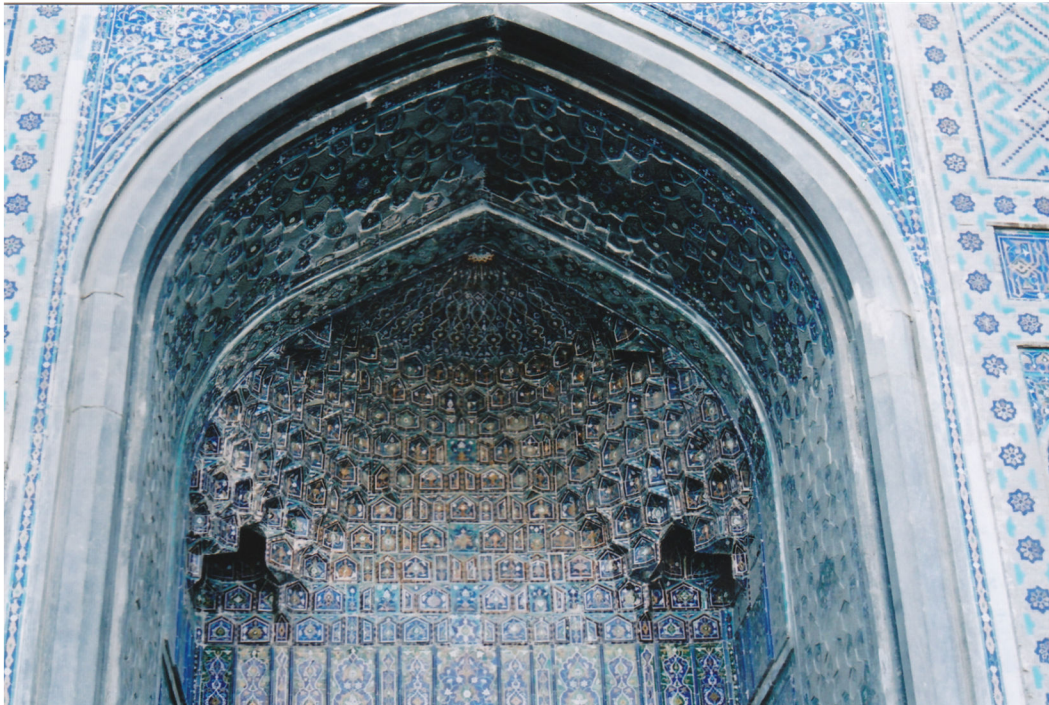
- ①タシケント (ウズベキスタン)
- ②サマルカンド (ウズベキスタン)
- ③シムケント (カザフスタン)
- ④タラス (カザフスタン)
- ⑤ビシュケク (キルギス)
- ⑥カル・カラ谷 (キルギス)
- ⑦アルマトウ (カザフスタン)



レギスタン広場



14世紀に造られたレギスタン広場は
サマルカンドのシンボルとも言える存在
広場に向かって左にウルグベク、
中央はティラカリ、右にシェルドルの
3つのマドラサ（神学校）が並んでいます





建物の内部は金箔を惜しみなく使った豪華で緻密な装飾がある

同じ文様は一つもないという



シルクロード
都市から離れると昔のままのシルクロードが
草原に続いている



サマルカンドの市場
さすがシルクロードのオアシスと
いわれるだけあって、色とりどりの
新鮮な果物があふれている

天山山脈の支脈が美しいキルギスでは世界第二位の透明度を誇るイシク・クル湖を訪れたり、さまざまな高山植物が咲き乱れるカル・カラ谷ではテントで二泊し終日のんびり花、花、花の中を散策したことなど楽しい思い出です



カル・カラ谷
キルギスとカザフスタンの国境にある天山山脈の雄姿を遠くに望みながら色とりどりの高山植物が咲き乱れる中、トレッキングを楽しみました



丘の中腹にある宿泊施設のテント、ここに2泊しました



イシク・クル湖

バイカル湖に次ぐ世界2位の透明度 琵琶湖の9倍、標高1600m
 この広大な湖の名前はキルギス語の《イシク（熱い）・クル（湖）》が由来
 塩分を含むためマイナス20℃を超えるキルギスの厳しい冬でも凍らない
 玄奘三蔵の記した書物「大唐西域記」にも「熱海」と記されているとのこと
 湖底には集落跡の遺跡が沈んでいて、昔から多くの伝説があるという

この旅は会報No.54（2007年4月1日発行）に“中央アジア三か国十一日間の旅”として掲載されています